瀬戸内市立　国府小学校

児童数　２８０名　・学級数　１４学級　・教職員数３１名（平成２７年２月１日現在）

○取組実践のキーワード

岡山型学習指導のスタンダードに基づいた授業づくり

（１）児童の主体的な学びを促す授業づくり（授業改善）

（２）全国、県の調査問題を活用した補充学習

（３）学習習慣の確立

○標題（研究主題）

本年度校内研究

研究主題『生き生きと伝え合い、共に学び合う児童の育成』

～国語科　説明的な文章の指導法の指導～

○取組を始めた経緯

平成２３・２４年度に長船ブロックで実施した『外国語活動推進事業』における研究主題「生き生きと伝え合い、共に学び合う児童・生徒の育成」を引き継ぐと共に、全国（県）学力･学習調査の結果から、本校児童は「文章を的確に読み取ること」に課題があると分析し、学力向上に向けた重点施策として県から出された『魅力ある授業づくり徹底事業』を受け、平成２５・２６年度と国語科（説明的文章）を重点とした研究に取り組んだ。

また、学習習慣の確立を目指して、長船ブロック共通の『家庭学習の基本的な考え方』を策定し、全家庭に配付、周知して取組を始めた。

○取組の実施体制

【校内】学力向上部会（校長･教頭･学年主任･教務主任･少人数指導担当）を中心に、授業づくり、課外学習、調査問題の結果分析、具体的推進内容を協議、実施している。

【長船ブロック】

ブロック内４校（小学校３校　中学校１校）の担当者で「学力向上推進会議」をもち、「家庭学習の基本的な考え方」を策定（平成２５年度）し、平成２６年度から実施している。

○学力向上に向けた具体的な取組

（１）主体的な学びを促す授業づくり

国語科　説明的な文章の指導について、今年度は目指す児童像を「学んだことを活用し、表現する子ども」と設定し、各学年で授業公開を行った。

１学年「自動車くらべ」

２学年「おもちゃの作り方」

３学年「大豆のひみつ」

４学年「アップとルーズで伝える」

５学年「ゆるやかにつながるインターネット」

６学年「言葉は動く」

（２）全国、県の調査問題を活用した補充学習

４月に実施した全国（県）学力･学習状況調査の結果を当該学年の担任はもとより、全職員で分析し、本校児童の課題について共有した。また、「学力定着状況たしかめテスト（４年･５年)」も同様に結果を分析し、授業をはじめ、朝の学習や放課後学習を活用して課題解決に向けて取り組んでいる。

また、放課後の算数プリント学習については、保護者や地域の方々による丸付けボランティアの支援もあり、より個に応じた指導ができるようになった。

（３）学習習慣の確立

長船ブロックで共通して作成した「家庭学習の基本的な考え」及び、それを踏まえて作成した「家庭学習のきまり」「自主学習の仕方（低中高学年別)」を４月に配布し、学年や学級の実態に応じて指導するようにした。２回（６月･１２月）のアンケート結果からは、著しく向上したとは言えないものの、家庭学習の時間が「０分」であった児童が減ったり、学年によっては学習時間が長くなったり、自主学習や予習を行う児童の割合が向上したりしており、今後に期待がもてるものとなった。

また、２月２日～２月８日までの１週間を自主学習強化週間「自主学習ホップ･ステップ･アップ週間」として、学校全体で取り組んでいる。

○現在までの取組の成果と課題

１　成果

・平成２５年度から取り組んだ「魅力ある授業づくり徹底事業」を通して、国語科の説明文の教材研究が深まるとともに、焦点を絞った公開授業、研究協議が展開できたことは大きな成果である。

・その他の教科についても、「岡山型学習指導のスタンダード」に示されている、一単位時間の授業５（ファイブ）を意識した授業が展開できた。その中でも「めあて」を板書に位置付けること、終末でまとめる際には、一時間の流れが振り返れるような構造的な板書にしていくことが定着してきている。

・算数科では、全国（県）学力調査結果を分析し、本校児童の課題について全職員で共有し、補充問題を計画的、継続的に行わせることで、知識・理解に関する内容については向上してきた。

・ＩＣＴ（タブレット）の活用について職員間で研修を重ね、授業の中や、朝学習で積極的に使う場面が増えてきた。

２　課題

・学力向上についての取組をしていくうえで、その基盤となる学習規律や生活習慣（学習習慣）の徹底を学校全体として、より推進・強化していく必要がある。

・一単位時間の授業５（ファイブ）の中では、③の「目標の達成度を確認する」部分がまだ十分とは言えない。

・グループ学習では、課題について自分の考え（意見）をもったうえで、隣同士や、班（小グループ）で話し合う場面を取り入れるようにしているが、発達段階に応じて、進行や記録をする役割を輪番制にする等、話し合いの進め方を、学級活動とも関連させて指導していく必要がある。

・学習習慣の確立に向け、生活習慣とも関連させ、家庭との連携をより密にしていくことが重要である。

○取組の継続・発展の要因

・岡山県教育委員会から「魅力ある授業づくり徹底事業」の指定を受けたことで、国語科の授業力アップが図れたこと。１年次の課題から、より焦点化したテーマで授業研究が進められたこと。

・全国調査後に出された「たしかめシート」や「トライシート」等の活用。

・学校支援地域本部の活動（学習ボランティア）

○管理職・中核教員等のアクション

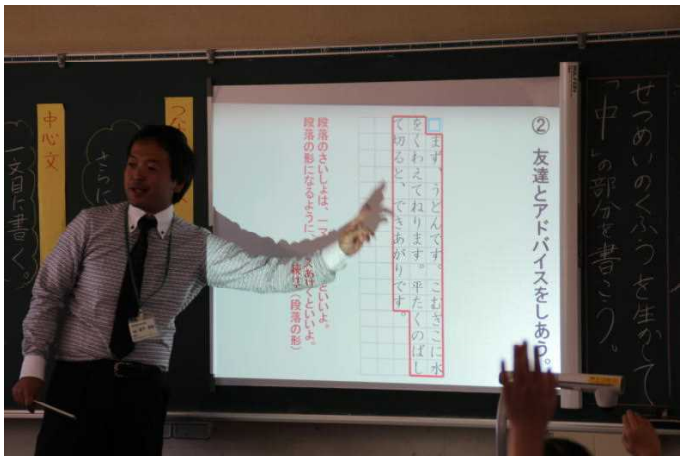
学力向上部会には管理職も参加し、協議内容に対して適切な助言を受けている。また、全国（県）の調査結果の分析や、『魅力ある授業づくり徹底事業』のアンケート結果等を学校便りに積極的に掲載し、学校が一丸となって学力向上へ向けて取り組んでいることを保護者へ伝えている。

また、学力向上部会が学年主任によって構成されており、主任自らが工夫、実践をすることで若手教員の規範となっている。

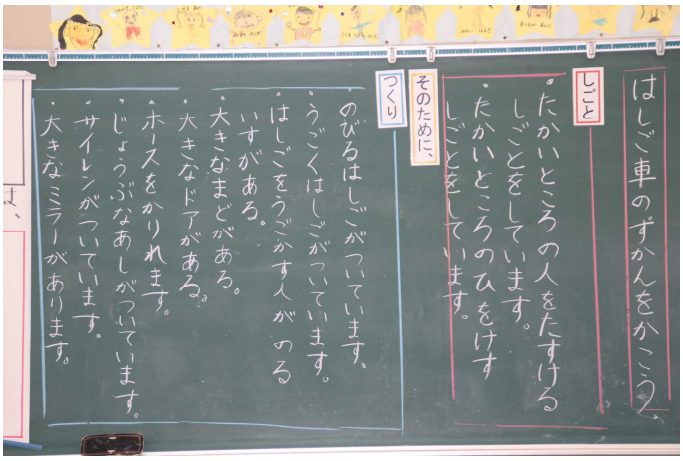
○その他の資料・写真等

放課後学習（算数プリント学習）

グループでの話し合い（机間指導）



教材提示装置を使って



板　書